第８３９号　ヤスクニ通信　２０２４年１２月８日

日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会

＜祈りのために＞

…イエスはこれに対して言われた、「それだけでやめなさい」。そして、その僕の耳に手を触れて、おいやしになった。…だが、今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である」。

（ルカによる福音書22章47－53節　口語訳）

「祭司長たちや律法学者たちは、どうかしてイエスを殺そうと計って」（２２章２節）いました。そして主イエスご自身が弟子たちに「人の子は定められたとおりに、去って行く」（同２２節）と宣告されました。この切迫した状況のもとで、緊張の中でことは起きました。

主イエスを捕らえようと祭司長、宮守がしら、長老たちが剣や棒を持って現れたのです。イエスのそばにいた人たちは、「主よ、つるぎで切りつけてやりましょうか」と言って、祭司長の僕に切りつけました。主イエスの弟子たちは帯剣していました。そのこと自体は驚くに値しないかもしれません。ガリラヤ人は旅の際に盗賊や野獣への備えのため、なんらかの防御手段を携行する必要があり、そのために武装することは珍しいことではなかったと言われています。

主イエスが「しかし今は、…つるぎのない者は、自分の上着を売って、それを買うがよい。…」と言われた時、弟子たちは「ここにつるぎが二振りございます。」（同３６－３８節）と答えています。少なくとも数人の弟子たちは常時帯剣していたと思われます。その剣がここで振るわれたのです。主イエスはこのことを予見できたはずではないか？　帯剣を許し、それを勧めさえしたために弟子のひとりが武器を用いて暴力を振るうという事態を招いたのではないか？　その前にそれを止めることもおできになったはずではないか？　という疑問が湧いてくるかもしれません。

しかし、主イエスはご自身が弟子たちのもとを去ったのち、彼らに迫ってくる危機を予告されたのでした。その時には、財布も、袋も、剣も必要になると（同３６節）。主はことさらに剣を帯びることを強調されたのでしょうか？　―右の頬を打たれたら、左の頬も向けよ―と言われた方が、この時におよんで武器の使用、暴力の行使を許されたのでしょうか？　主が許されたので、弟子たちがことに及んだとは思われません。手に手に剣や棒を持って迫ってくる群衆を前にして、その恐怖に耐えきれずに切りつけたのではないでしょうか？

弟子たちの言動が主イエスの言の真意を悟れず、的外れになってしまったのはこれが初めてのことではありません。しかし、主は弟子たちの過ちやつまずきを先回りして止めようとはされませんでした。つるぎを捨て去るようにとはお命じになられなかった主ですが、この時弟子たちに命じられたことがありました。祈ることです（同３９－４６節）。主イエスはいつものようにオリブ山に行かれ、切に祈られたのち、ご自分に向かって来る者たちを恐れず、落ち着いて立ち向かわれました。そして、剣を抜いた弟子たちに「それだけでやめなさい」と言われ、ご自分を捕らえるために武装してきた者をお癒しになっているのです。

〈祈り〉主よ。私たちがこのやみの支配の時にも、怒りにまかせず、恐れに打ち勝って、いつでもあなたの指し示す方法を祈り求め、この戦いの勝利を信じて忍耐することができるようお導きください。

（菅原正道　上田教会牧師）

新シリーズ『日本基督教会大信仰問答』第 14 章「終わりの日」を読む（第４回）

川越弘（沖縄伝道所牧師）

問 281 再臨の日に、イエス・キリストによって何がなされるのですか。

答え　それまでは、ただ信仰の秘儀として隠されていたものが、あきらかにされるのです。すなわち、最後の審判が行われ、救いの御業が完成し、神の国が実現するのです。

新Q281-1　再臨の日とはどんな日ですか。

新A281-1　再臨の日とは、世の終わりにキリストが再臨する日のことです。世間では「世の終り」は世界の消滅を語りますが、聖書はそう語っていません。「世も世にある欲も、過ぎ去って行きます。しかし、神の御心を行う人は、永遠に生き続けます」(Iヨハネ2:17)とあるように、偶像礼拝と人間の欲望の有様が過ぎ去るのです。「…そのとき、キリトは全ての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです」(Iコリント15:24-25)。そこでは神の意志だけが全面に現れ、神の支配が全てとなるのです。主イエスは父なる神の服従の先頭となられて、世界の真ん中に立たれるのです。その時、彼を模範として生きることが中心となる神の意志が全面に現れるのです。これが「世の終り」であり、「キリストの再臨」です。

新 Q281-2　信仰の秘儀として隠されていたものが、あきらかにされるのですか。

新A281-2　パウロは「あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されている」（コロサイ3:3）と語っています。主イエスの命は、今は神の内に隠されているように見えますが、現実に生きて働いておられます。神の御心は、全ての人が神の戒めに生きるように支配しておられるのです。世界の表面に見えるのは、人間の自己中心性、世の欲・偶像礼拝・不真実な虚栄です。それが人々の心の全面を覆っていて神の真理が見えないようにしているのです。しかし世の終りの完成の時が来ると、それらは空しくも崩れるのです。

新 Q281-3　最後の審判は行われるのですか。

新A281-3　どんな人も神の御支配から免れることは出来ません。人間は悪いことして自己弁護を繰り返して良心が麻痺しても、悪いことは良いことではないということを知っております。そして、やむを得なかったと言って弁解をするのです。人は誰でも良心の葛藤があります。自分の良心の中で「神の裁きが自分を滅ぼすことは正しい」と認めざるを得なくなるのです。（ローマ2:14,15参照）

新Q281-4　救いの御業が完成するというのは、どういうことですか。

新A281-4　「イエス・キリストが最初においでくださったのは、多くの人の罪を負うためでした。しかし、もう一度お出でになるのは、私たちに与えられている救いを完成されるためです」（ヘブル9:28参照）。

弟子たちが天に上げられた主イエスを見つめていると、天の使いが「あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなた方が見たのと同じ有様で、またおいでになる」(使徒1:11)と告げられました。すなわち、十字架上で「お受けになった傷によって、あなたがたはいやされました」（Ⅰペトロ2：24）といわれるお方が、天に行かれるのと同じ有様で再びおいでになるのです。

「世の終わり」において、神はご自分の意志を完成されるのですが、私たちは何もしないで期待して待つのではありません。キリストは罪赦された私たちに神の御意志に従う志を起こさせ、摂理の働きをもって私たちと同伴してくださって、神の御意志を実現させるのです。それが私たちの信仰の自由の決断の中でなされるのです。

私たちは神に感謝しながらも、実際は罪の悔い改めの連続です。信仰とその働きと言っても、取りに足りない働きと行為です。しかし主イエスは、私たちの罪を厳しく裁きつつも私たちの罪を償われ、不完全な私たちの信仰を神の側から完成してくださるために、この地上に来てくださるのです（フィリピ3:20, 21）。そのために私たちは、神を敬い隣人を愛する戒めを基本にして国家の悪に抗いながら、終りの日に備えて待つのです。その時「この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬものが必ず死なないものを必ず着る」(Iコリント15:53)のです。朽ちる体の上に朽ちない体がかぶせられ、死ぬ体の上に死なない体がかぶせられるのです。このようにして、主イエスは不完全な私たちの信仰を完成するために来てくださるのです。

連載３「戦時下の教会資料発掘報告」（北海道中会ヤスクニ社会問題委員会ニュース 2024 年春号より転載）

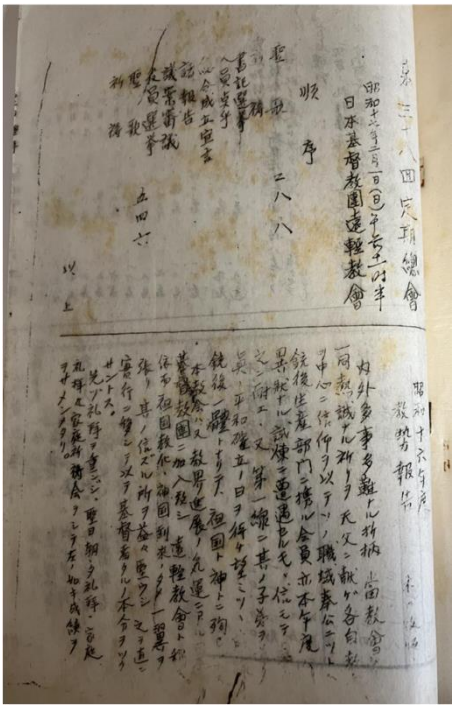
畑知佳（遠軽教会牧師）

教会の報国実践–前線・銃後一体の奉仕の具体例–

１．礼拝における国民儀礼の実施

（前号より続き）

蛇足ですが、現在遠軽では町内に郵便を出しても最長 5 日掛かることがあります。それに比べたら、当時日本の北端にあるこの遠軽教会にも大会・中会からの通達がこれほど迅速に届いていたことに驚くばかりです。そして、それをかくも忠実に実行した遠軽教会。それほどの厳重な政府による統制が、地方の末端の教会にまで及んでいました。



←第 38 回定期総会記録 教団成立後，初の遠軽教会総会（1942 年 2 月 1 日）

・昭和十六年度教情報告（木口牧師）「内外多事多難なる折柄、当教会員一同熱烈なる祈りを天父に献げ各自教会を中心に信仰を以てその職域奉公につとむ銃後の生産部門に携わる会員亦本年度は異常なる試練に遭遇せるも信もて克ち之に耐え、又第一線に其の子弟を送り真の平和確立の日を待望みつつ前線銃後一体となりて、祖国と神とに殉せんとす。本教会は又教界進展の気運にある日本基督教団に加入致し、遠軽教会と称す。依而祖国教化、神国到来のため一翼を張り其の信ずる所を益々堅うし之を直に実行に移して以て基督者たる本分をつくさんとす。先ず礼拝を重んじ、聖日朝夕礼拝、家庭礼拝及家庭集会をして左の如き成績をおさめしめたり。」

２．前線に赴いた青年たち

さて、その厳しい統制下では、旧宗教団体法のもと設立した「日本基督教会ナル教団ニ漏レテ單立教会トナル」ことは「不幸ヲ見ル」ことであると、最初に見つかった富田満の通達文書には記されています。

“幸いにも”遠軽教会は 1942 年の第 38 回教会総会で教団加入を決議し、同年 3 月 31 日に無事国からの認可を得て存続しました。その時の総会記録にある木口正八郎伝道師の文章にはこうあります。

「内外多事多難なる折柄、当教会員一同熱烈なる祈りを天父に献げ、各自教会を中心に信仰をもってその職域奉公につとむ銃後の生産部門に携わる会員、亦本年度は異常なる試練に遭遇せるも信もて克ち之に耐え、また第一線にその子弟を送り真の平和確立の日を待ち望みつつ前線銃後一体となりて、祖国と神とに殉せんとす」

この言葉の通り、祖国のために死ぬことを辞さない覚悟であった遠軽教会は、多くの青年たちを戦地に送りました。しかしこれはつまるところ、教会が生き残るために、代わりに青年たちの命を差し出したということなのではなかったでしょうか。

週報では、教会の青年たちがどこの部隊に配属され、どこの戦地に送られたかを都度詳しく報告しています。また青年会記録には、牧師を交えて送迎会や帰還祝いを実施したことも記されています。そうして、戦地に赴く会員を激励し、その功績をたたえ、その死や負傷を名誉あるものとしたのです。

青年の一人で、現長老の菊地利男さんと菊地正さんの叔父にあたる菊地七朗さんは、遠軽教会で唯一戦地における任務遂行中に戦死した方でした。横須賀海兵隊に入隊した七朗さんは、1944 年 10 月のレイテ沖海戦で、乗艦した駆逐艦「出雲」と共に海に沈んだのです。菊地長老は当時を振り返りながら、「叔父の骨は一つも帰って来なかった」と苦虫を噛むような顔で話してくださいます。

（次号に続く）

＜靖国関連ニュース＞

○今から８０年前の１９４４年。沖縄では、米軍上陸必至とみて、急ピッチで戦争準備が進んでいた

この年の夏から秋にかけ、沖縄住民の命運を決定付けるような重要な方針が、軍や政府から相次いで示された。

８月３１日、第３２軍兵団長会同において牛島満司令官が行った訓示。

１０月６日、閣議決定された決戦与論指導方策要綱。

１０月、参謀本部と教育総監部が作成し全軍に配布した上陸防禦（ぼうぎょ）教令（案）。

１１月１８日、第３２軍司令部が出した報道宣伝防諜（ぼうちょう）等に関する県民指導要綱。

これらの文書は大本営や沖縄の３２軍司令部などが当時、何を考えていたのかを示すもので、秘密扱いされ、一般に知られることはなかった。

牛島司令官は訓示の中で、現地自活を徹底するとともに、官民が喜んで軍の作戦に寄与するよう住民を指導し、防諜には特に注意するよう求めている。

与論指導方策要綱は、米英人の残忍性を実例を挙げて示し、彼らの暴虐行為を暴露するなど敵がい心を育てることが重要だと説く。

上陸防禦教令は「不逞（ふてい）の分子等に対しては機を失せず、断固たる処置」を講じると強調している。

県民指導要綱は「六十万県民の総決起を促し」「軍官民共生共死の一体化」をうたっている。

「軍官民共生共死の一体化」という言葉は、沖縄戦を象徴するキーワードとして繰り返し引用され、語られてきた。

沖縄戦で「集団自決」（強制集団死）や日本兵による住民殺害が相次いだのはなぜか。

これらの文書は、その問いを検証するための欠かせない資料である。

将兵が身に付けるべき行動規範を説いた戦陣訓は、天皇のために死ぬことを賛美し、敵の捕虜になることを事実上、禁じた。

そのような戦場道徳を身に付けた将兵は、軍事機密が漏れるのを恐れ、住民が捕虜になるのを警戒した。

実際、沖縄戦では米軍上陸後にスパイ容疑をかけられ、日本兵に殺害されるケースが各地で起きている。

サイパンの戦いでは、多くの邦人が断崖から身を投じた。米兵に対する恐怖心が刷り込まれていたのだ。

なぜ日本軍は、投降を認めることで住民を保護するという「まっとうな方針」を採用せず、民間人まで道連れにしたのか。

サイパン陥落の際、大本営・政府連絡会議でこの問題が持ち上がり、議論が交わされた。

「居留邦人に自害を強要することなく軍とともに最後まで戦い、敵手に落ちる場合あってもやむを得ない」との趣旨の結論になったという。だが、この結論は秘密にされた。

民間人の投降を許容する方針が明確に示されていれば、沖縄戦の様相は変わっていたはずだ。」

（沖縄タイムス、社説、24.11.04）

○戦争は人の心の中で生まれるものであるから…

＜戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない＞。国連教育科学文化機関（ユネスコ）憲章の格調高き前文の一節である▲設立されたのは第二次世界大戦終結の翌年だ。争いの原因には相手への無知や無理解があったと反省し、学術や文化の交流促進を誓った。世界遺産登録ばかりが注目されがちな国際機関は本来、平和構築を主目的とする▲米国務省によると、前文草案を書いたのは、人道主義で知られる米詩人アーチボルド・マクリーシュである。第一次大戦でフランスに派兵され、第二次大戦が始まる直前、議会図書館長に就いた。ユネスコ設立に向けた会議で米国代表団を率い、晩年は農地を耕した▲憲章が発効したのは 1946 年 11 月 4 日。きょうが 78 歳の「誕生日」だ。世界を見渡すと、ウクライナやパレスチナ自治区ガザ地区で戦闘が続き、欧米をはじめ各国で社会の分断が深まる▲戦場には世界遺産も多い。ユネスコはウクライナ南部オデッサの歴史地区、ガザの聖ヒラリオン修道院などを「危機遺産」に登録し、保護を呼び掛けた。レバノンでもローマ時代の遺跡近くが爆撃されている▲相手に対する無理解どころか憎悪、敵意が肥大化し、憲章の理念はすっかり忘れ去られたかのようだ。マクリーシュは言った。「愛ではなく憎しみによって生きる人は病む人である」。胸に手を当て自らに問いたい。異なる意見に耳を傾け、心に平和のとりでを築けているだろうかと。（毎日新聞、余録、24.11.04）

＜編集後記＞ 第一回靖国神社問題特別委員会で、委員長に粂広国書記に菅原正道、会計に井上豊が互選されました。ヤスクニ通信の紙面に関するご意見、ご要望もお寄せください。

839号ヤスクニ通信　2024年12月8日
発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会
発行・編集　粂広国（函館相生教会）